

神奈川県議会議員

永田まりな

MARINA NAGATA



令和4年第一回定例会が3月25日に閉会しました

鎌倉人 VOL.65

第一回定例会では、一般会計2兆3400億円を超え過去最大、特別会計と企業会計を合わせた総額も4兆6000億円を超えて過去最大、また4年連続での4兆円越えという膨大な令和4年度の予算を審議しました。3月14日から17日の4日間、令和4年度予算を集中的に審議する予算委員会が開催され、私は15日に質問の機会をいただき以下3項目について議論しました。

1 NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放送機会を捉えた県の取組について

課題

今年の1月から大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送が始まっているが、横浜銀行などの試算によれば、この大河ドラマの放映等による県内経済への波及効果は約307億円にも上がるとのことであり、鎌倉はもちろんのこと県内経済のコロナ禍からの回復の弾みとなることが期待される。県内経済の活性化に向け、ドラマ放送の機会を捉えて来訪者の県内周遊を促進していくことが重要である。

質疑を通じ確認できたポイント

本年度予算には「大河ドラマを契機とした観光プロモーション」に約2,200万円を計上。(当初予算案は約3,400万円)既に実施の取組では

- 特設Webページの開設(12/27~2月末で35万PV)
- 県内ゆかりの地、観光スポットやグルメ情報を網羅した周遊マップの作成(1月に3万部作成→好評につき3月さらに2万部追加)
- NHK相互協力ポスターの制作

今後、県内外から観光客を誘致する目的としてさらに...



- デジタルスタンプラリーの開催(※)
- 特設Webページの内容の拡充運営
- 周遊マップのリニューアルと増刷
(※)開催時期は夏以降(8~10月)を予定し、広域的に周遊観光してもらえるようなコースを設定する。企業協賛活用賞品やチラシ作成、参加者データの集計分析等も実施見込み

達成

データの集計分析については以前より求めていたところであり、来年度スマートフォンを使ったデータの集積に関する予算が計上されました!何となくイメージで、ではなく、根拠あるデータを基に政策が立案されることを求めてきました。

質問

地元を舞台とした大河ドラマ放映は、神奈川県の子どもたちにとって地域のことを知ってもらう絶好の契機だが、この好機に弾みをつける取り組みは?

回答... 今回のドラマ放映を機に、例えば湯河原町で行われる「源頼朝旗揚げ武者行列」や鎌倉時代から続くとされる山北町の「室生神社の流鏑馬」、また県内各地のゆかりの史跡など、自分たちの住む地域の歴史や文化についてより一層興味関心を深められるよう取り組む。

また、令和2年11月に設立した「神奈川県『鎌倉殿の13人』連携協議会」には、現在16の市町が参加中。協議会において、ゆかりの地のリストアップをしたところ100を超えるゆかりの地が発掘した。これらを特設Webページや周遊マップで紹介し、県内周遊観光の活性化を図りたい。今後協議会を通じて、デジタルスタンプラリーの活用促進や、NHK共催イベント等における観光プロモーションを行なっていく予定。

永田の
要望

「すべての歴史の基本は、地域の歴史」
自分達の暮らす街の歴史教育推進!

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のぼり旗は、県内共通の目印となり、市町毎に作成するより効率的効果的なプロモーションとなるため、制作検討を求めました。この機会を逸することなく、県内周遊観光を促進することで、県内経済の活性化につなげたいところです。

大河ドラマ人気を一過性のものに留まらせず、データ分析を行い、将来的な施策展開の礎として頂くよう要望しました。



「すべての歴史の基本は、地域の歴史である」ともいわれており、自分たちが住んでいる街の歴史教育が進められることを期待しています。

2 急務！コロナ禍で冷え込んだ県内経済の回復と活性化

課題

コロナとの闘いも2年を超え、冷え込んだ県内経済を回復するとともに、アフターコロナを見据えた県内経済の成長を図っていくための施策が必要！

質問

ロボット産業などの成長産業やその担い手となるベンチャー企業支援について伺う。特にHATSU鎌倉が来年度も継続されるものの規模が縮小されることに関して、地域課題を解決するという目的が達成できるのか？

回答… 達成できるよう、鎌倉市や事業者との連携を強くし、運営にあたっていく。

永田の
要望

コロナは地域との関わり方、働き方に変化をもたらしたと言われていれ、ここまでに県が温め取り組んできた本県のロボット分野などの成長産業、また成長産業の担い手となるベンチャー企業は今まさにチャンスを迎えている。一方で、その成果・効果が出るまでに時間がかかり、短期的な数字のみで評価しにくい分野でもあるが故に、どのような評価視点を持つのかが非常に重要である。評価視点がブレると全ての施策に影響する。確固たる評価視点を持って経済の活性化を図ること、それなくして地域の活性化はあり得ず、県民の生活を守ることはできない。今後も愚直な取り組みと推進を求める。

3 増える県立高校における生徒の心の問題、行政は十分な支援を！

課題

子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中、コロナ禍の長期化により子どもたちに様々な我慢や制約を強いている。多感な年ごろにあり、多様な悩みを抱える県立高校の生徒の心にも、かつてない深刻な影響をもたらしていると考える。

質問

若年世代の中でも、特に学生生徒の自殺者数が令和2年には前年比20人増で75人、内高校生が29人と非常に多くなっている。学校におけるスクールカウンセラーへの相談件数も、令和2年度は19,000件にも上り、ニーズが急増している。増員すべきではないか？

回答… 令和4年度は4人増員する予定。またこれまで以上に必要性が高まっており、今後もスクールカウンセラーの充実を検討していく。(教育長より)



永田の
要望

コロナ禍にあって県立高校の生徒の心の問題は深刻な状況にある。自己形成が不完全な思春期故の悩みも多い年ごろである。自身を振り返っても、日々悩みを抱えても友達と話すこと、遊ぶこと、部活動やイベント・行事を通じ友情を深めていくことで解消されることも多かったように思う。

しかし、その当たり前はコロナにより一変。高校生(のみならず)はその「当たり前」を享受できなくなった。こうした状況の中、スクールカウンセラーによる専門的なカウンセリングの必要性は一層増している。県立高校におけるスクールカウンセラー配置は、これまで順次拡充が図られてきてはいるものの、コロナによる影響が長期化する中では十分とは言えない。様々な悩みを抱える生徒や保護者のニーズに対応する一助として、スクールカウンセラーの増員に努めるよう強く求める。

II 永田まりなプロフィール



1983年2月19日生まれ38歳 七里ガ浜在住
聖路加幼稚園～鎌倉市立七里ガ浜小学校～私立北鎌倉女学院中学校
神奈川県立鎌倉高校～フェリス女学院大学卒業

2013年 鎌倉市議選初当選、2017年 鎌倉市議選2期目当選
2019年 神奈川県議会議員初当選
厚生常任委員会、予算委員会、議会運営委員会所属
公式LINEで県政情報など随時発信中！

「永田まりな」公式LINE
友だち登録はこちら



永田まりな事務所